

日時：2024年4月2日（火）18:30～20:30

場所：真庭市役所本庁舎会議室

参加者：19名

テーマ：①令和5年度の振り返り ②令和6年度に向けて

### ①令和5年度の振り返り

○令和5年度に開催した2回+番外編（カードゲーム型ワークショップ）についての振り返りを行うとともに、市民提案の「脱炭素の日」についての検討を行った。

- ・真庭市脱炭素市民会議版 脱炭素の日：毎月2日を“環境を考える日”として制定。個人・家庭・職場などでできる取り組みを実践していただくほか、SNS等で発信いただくものを市でも拡散するなどPRを行うこととなった。

○市民会議参加者の振り返りや、実践している取り組み（一部紹介）

#### 【振り返りや感想】

- ・こういった場で皆で話すことが特効薬になるのでは
- ・カードゲーム型ワークショップが一番分かりやすく、楽しかった

#### 【実践している取り組み】

- ・ごみの分別、マイバッグ、マイボトルなどできることから
- ・40トン近くの木材をバイオマス集積基地に搬入
- ・野菜くずなどを畑に埋めて農作物を栽培
- ・次世代自動車（ハイブリッド等）を選択
- ・プラ製品を極力選ばず、木・紙製品を使うようにするなど、徹底的にすれば楽しむことができる。中途半端は苦しくなる
- ・アパートの床暖房を使わない
- ・太陽光パネルの設置、断熱等リフォーム
- ・自転車通勤

#### 【その他】

- ・市内全小学校の牛乳が瓶からパックになってしまった。洗う手間、水道代等の関係もあるかもしれないが、パルプの使用が増えるのは問題ではないか。
- ・紙をただ燃やすのではなく、熱利用をすることを考える必要はあるのでは。
- ・建築業界も省エネへの適合が求められているが、断熱リフォームが進んでいない印象。
- ・環境省でもデコ活に取り組んでいるが、国民全体で機運の醸成が必要。
- ・エネルギーリソースの選択肢を増やすことが大切と感じる。脱電気。

## ②令和6年度に向けて

### 【課題】

脱炭素の意識を市民・事業者に浸透すべく市民会議を開催しているが、現在は参加者の固定や人数の減少など裾野を広げる取り組みが必要と感じている。

### 【意見】

- ・ 総花的にするのではなく各回テーマを絞り、テーマに沿ったキーパーソンに参加してもらっては。
- ・ 行政が行うイベントはハードルが高いものが多いと感じる。参加しやすい雰囲気づくりが大切。  
⇒オンライン参加や口コミの拡散などもハードルが下がるのでは。
- ・ 平日夜間だけでなく、休日昼間など違った層の方も参加しやすいかも。
- ・ 小学生に向けて授業などで伝えていくのも良いかも。
- ・ 気候市民会議など、行政に提言ができる環境にするのはどうか。  
⇒（大塚先生）国内でも先例はあるが、大都市で30~40人/回くらい。
- ・ 知り合いを誘い来てもらうことも大切。
- ・ 3.5%の法則※にならば、真庭市民の3.5%（約43,000人 $\times$ 3.5% $\approx$ 1,500人）が動けば地域が変わるのでは。  
※3.5%の法則とは…ハーバード大学の政治学者エリカ・チェノウェス氏が発見した法則で、人口の3.5%の人が動けば世界が変わるというもの



集合写真